

エンジニアパーク

Engineer Ring Park

一昨年、久しぶりに技術士試験を受けたのですが、願書記入に際し、経歴を確認した時に、大層、驚きました。最初の合格が、平成12年度なので、技術士になって早くも12年が経過していたのです。図々しくも「若手技術士」のつもりでいたので、少々ショックを受けました。たしかに、この頃、徹夜がしんどくなってきたし、私の態度・風貌ともに、若手にしては、そろそろ(もともと)ムリがあるようなので、甘んじて現実を受け入れざるを得なかったのですが。

今の会社に移って4年半が過ぎました。転職するときは「これで少しはゆっくりできるだろう」と、漠然とした期待を持っていたのですが、これが全くの大間違いで、相変わらずバタバタした生活を送っています。どうやら騙された(?)ようです(笑)。

今の職場は小さな会社なのでいろいろな仕事があります。当然、実務にも携わっています。前の会社では、新規の橋の設計がほとんどでしたが、最近は、構造物の点検や補修補強設計などに関する仕事が多くなりました。そのせいか、昔よりも発注者と「現場」で意見を交わす機会が増えたような気がします。新設構造物とは異なる「現地合わせ」的な要素が多いからでしょうか？これがとても有意義で、どうやら、私には現場との距離の近い仕事の方が向いているようです。

もちろん、実務以外の仕事もしているのですが、これが残念ながらあまり向いていない(笑)。マネジメント能力の不足を痛感する日々を送っています。「10年前のあの総監の試験は一体何だったのか？」そんなジレンマからの脱却が、私の当面の課題です。

田中 雄太 (たなか ゆうた)

●建設部門(鋼構造及びコンクリート・道路)・総合技術監理部門

勤務先

株式会社タナカコンサルタント
e-mail: yuta-tanaka@tanakaconsult.co.jp



→次号は、伊藤史弘さん(建設部門)

釧路市役所に奉職し30年以上が経ちますが、その間道路、上下水道、都市計画・開発、港湾、技術検査等の業務を担当してきました。業務に慣れた頃に異動になるパターンの繰り返しで、より専門知識・技術を深めることができなかつたのは残念なことでした。反面、多種多様な公共事業に携わり、多少なり広い視野から地方自治行政の仕事に関わることができたため技術士になることができたと思っております。今後も業務を通じて得られた知識・経験を有効に活かせればと考えております。

さて、平成17年に「品確法」が制定され、技術提案を適切に審査・評価するため発注者側にも技術士の見識が求められるようになりました。これにより、技術士の必要性が高まるかのように思っておりますが、国等と違い市役所では技術士の認知度や入札制度等の違いから評価・必要性が低く、技術士を行政内部で有効に活用する状況には至っていないのが残念です。

しかしながら、最近では地方自治体職員の資格取得意識が高くなり、技術士を目指す職員が増えていることや、技術士資格所有者を採用条件に掲げて人材を募集する自治体もあり、自治体技術士の存在意義や積極的な活用が期待できる状況になってきていると感じております。

今後は国・地方とも財政状況が厳しいなかで、官民一体で必要な公共事業・維持管理を的確に推進していかなければなりません。そのためには、技術士皆さんの見識・経験・技術がより一層活かされる活躍の場や技術士の仕事に対する理解が広がることを願っております。

最後に、将来を担う若い技術士諸君の奮闘・活躍を大いに期待するところであります。

佐藤 之泰 (さとう ゆきひろ)

●建設部門(都市及び地方計画)

勤務先

釧路市市役所



→次号は、定塚 徹さん(建設部門(建設環境))